

馬電菱の実会だより (No. 46)

3顧問(大竹・日比野・近藤さん)に聞く

馬電菱の実会10周年という記念すべき年である平成8年度もまもなく終ります。10年を一区切りとすれば、また新たな気持ちで新年度を迎えるべきです。そこでこの創世期の10年間を会長として菱の実会をリードして下さった大竹さん、日比野さん、近藤さん(現顧問)の3人に、思い出や意見などを伺ってみました。

馬電菱の実会設立当時を振り返って

第2代会長 日比野 秀雄

菱の実会は昭和61年6月に組合幹部、会社の支援、協力を得て、初代会長大竹照雄さん、副会長近藤真澄さんと私、ほか幹事数名を立て設立しました。

会発足後の第1回総会を兼ねた親睦旅行は、その年の11月に参加者16名でもって自家用車に分乗しコープシャトウへ、第2回は水上館へ、そして総会、親睦旅行その他の行事の回を重ねるごとに参加者が多くなり、これからの発展が楽しみでした。

副会長であった私が2代目の会長に推され、当時73歳であったにもかかわらず、役員の皆さんとの協力を得、また組合、会社幹部の方々の支援を得て一期間務めました。

旅行好きの役員幹事の方が多く、平成2年9月5・6日に前会長や組合担当者を招いて慰労を兼ねた役員旅行を実施しました。11名の参加を得て自家用車で老神温泉の伍楼閣へ出かけましたが、当日はちょうど賑やかな温泉まつりの日、踊ったり、唄ったりして楽しんだものでした。

その頃からカラオケ愛好会を始めようと話がまとまり、幹事の奥さんも同伴で始めました。

この愛好会も回を重ね、今日のように盛大になり、皆さんが楽しんでいられます。

親睦や健康のため、いろいろ愛好会ができ、退職後も皆さんとお会いする機会が多くなり喜ばしいことだと思います。今後私も行事には誘い合って参加したいと思います。

会員の中には元気で有能な方々が大勢いますので、時代に対応した行事を実施され、菱の実会の益々の発展を望む次第です。



新会員紹介

関口 起さん (平成8年10月20日定年)

住所 太田市細谷町 42-1

☎ 0276-32-1087

昭和34年7月入社。資材部資材倉庫に配属になりました。

平成6年より2年間菱馬テクニカ(株)に出向し、平成8年10月定年を迎えました。

入社以来38年間資材管理業務に従事し、若き頃は野球部に籍を置き、また労働組合結成時は役員も経験する等々、種々の行事に参加させてもらい、多くの皆様とおつき合いをさせていただきました。

38年間無事勤務できたことは諸先輩や同僚のご指導やご鞭撻の賜物と心より感謝いたしております。

今後は好きなスポーツに再度関心を持ち、楽しみたいと思います。

この度菱の実会に入会させていただくことになりましたので、先輩の皆さん会社生活同様よろしくお願ひいたします。



長谷川 哲男さん (平成9年1月20日定年)

住所 尾島町尾島 503-1 ☎ 0276-52-2665

昭和34年10月に入社。試作工場を希望して配属になり12年間。その後外注技術、信頼性管理室、商品技術、品質管理、品証試験を経験した。

昭和59年10月にはMHK発足に伴う業務移管により出向を命ぜられて品証試験、工作技術、商品技術、工務にて金型の調査、整理、管理と合わせ、計測機器の校正、管理を担当した。

さらに平成6年3月から協力会社の三芳製作所へ再出向となり生産技術を担当、そして今回無事に定年を迎えることができました。

この間約38年間、多岐に亘る貴重な体験をさせていただきましたが、良き先輩、同僚、後輩の方々のご指導ご支援の賜物と心より感謝いたしております。

今後は地域社会に溶け込み、できるだけボランティア活動等に参加して、自由で楽しくそして有意義な人生を送る努力をしてまいりたいと考えております。菱の実会の皆様にはよろしくご指導のほどお願い申し上げます。



会員投稿

花とひと(1) 熊谷市 鈴木英雄

もうかれこれ30年以上も前のことになると思うが、五月晴れの5月のある日、私は友人とともに二人で馬の背のような痩せ尾根を歩いていた。どこか遠くで山鳩が鳴き、うぐいすのさえずりが、遠く、近く、山の静寂を破って聞こえてきた。人影もなく、人の世の物音から隔離されたのどかな春の日だった。尾根の両側は谷間になっていて、ひたすら緑の芽生えが広がり、ひそかに風が通っていた。

ここは上州赤城の山。前夜は友人（当時の本社のある副事業部長）とともに馬電の赤城の山の家で一泊した。当時の山の家の管理人は、現在は菱の実会の会員である高柳さんであったと記憶している。

私どもが歩いていた細い尾根道は、その両側が熊笹でおおわれ、ところどころに樹齢100年は遙かに越えたと思われる白ヤシオツツジの古木が谷間に向かって、まるで盆栽の懸崖造りのように枝を延ばしていた。上州特有の空つ風で、このような姿になってしまったのであろう。このツツジは晩春に、過ぎゆく春を惜しむように枝先一杯に純白のや、筒状の花をつける。

私たちは特に決められた道を歩くというのではなく、ともかく気の向くまゝに、この痩せ尾根を次第に奥へ奥へと辿っていった。やがて両側の熊笹が小径の行方を遮るように蔽うようになり、蜘蛛の巣が張りめぐらされて、人が永く足を踏み入れた形跡が感じられなくなってきた。すこし気味悪く思ったその時、ふと私は尾根の下方の薄暗い谷間に目をやった。谷の遥か下方には灰色の霧が立ち込め、谷底は見ることができなかつた。そして驚いたことには灰色の霧の上には、此処 彼処(ここにこ)と、ピンクの大きな塊りが点々と浮かんでいるではないか。それは夕暮れの庭にぼんぼりが灯つたようでもあった。

もしかすると霧の下には池があって、蓮の花だけが霧の上に浮かんでいるのかも知れない。極楽浄土で見る蓮の花はさぞかしこのような花ではと、その神秘的な光景に私たちはしばし心を打たれ、その場に立ちすくんでしまつた。誇張した表現のようだが、私たちはその時本当にそう思い、感激したのである。やがてその感激は好奇心に変わり、霧で底の見えない谷底に降り、それが何であるのか確かめる決意をした。

谷はほゞ直角に近い急斜面であったが、木の根につかまりながらすこしづつ私たちは谷底に向かって降りて行ったが、思ったより谷は浅く、案外簡単に谷底に到着することができた。そして霧の上に浮かんでいたピンクの蓮の花のようなものは、じつは蓮の花ではなく、シャクナゲの花房(花のかたまり)だけが、あちこちと灰色の濃霧の上に出ていたことが判明した。霧の下には満開のシャクナゲの古木の大群落が存在したのである。そこには今もなお忘れ得ぬ幻想的な光景が広がっていた。(つづく)



(1ページからつづく)

3顧問(大竹・日比野・近藤さん)に聞く

- ♠ …菱の実会に対するご意見は…
- ♣ 年に1回くらい(春か、秋に)は、日帰りで家族ハイキングでも出かけられたら、楽しいと思う。
- ♣ 行事に対する会員の参加は、地元近郊に居住する人に限られてしまうことが多い。仕方がないと思うものの、何らかの方法が考えられればよいのだが…。
- ♣ 入会資格のひとつに「定年退職…」とあるため、会員のほとんどが男性である。かつて馬電に勤務し、結婚退職をした多くの女性たちは、今になってみると勤務当時がなつかしく思い出され、菱の実会の会員がうらやましいとの声がある。今後の検討課題ではないだろうか。

◆おしらせ◆

(1) 第6回(冬季)グラウンドゴルフ大会

上記大会を次のように開きます。なお大会ですので、参加希望者は申し込みが必要です。(早めにお願い!)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| ●日 時 2月24日(月) 午前9時から | ●会 場 利根グラウンドゴルフ場 |
| ●会 費 500円(当日徴収) | ●申 込 2/20(木)までに事務局へ |
| ●その他 ①賞品多数あり! | ②小雨決行、雨天延期 |

(2) 3月度 カラオケ月例会

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| ●日 時 3月3日(月) 午後5時から | ●会 場 睦荘 YOU遊ホール |
| ●申 込 愛好会役員(小塚: 0276-31-7894)まで | |
| ●会 費 2,000円(当日徴収) | |

編集後記 ● 寒くなるにつれ、今年もまたインフルエンザが猛威を振るい始めました。会員の皆さんお元気でしょうか。風邪といえばやはり予防が第一。そして予防といえば屋外から帰ったときにまず「うがい」とお医者さんも言っています。

でもかかるてしまったら…。部屋を暖かくして、床に入って休息することだとか。
 ● 会員投稿欄には、今月号から鈴木英雄さんによる「花とひと」が始まりました。平成7年9月号の本紙の人材バンク欄に掲載したように鈴木さんは日本つづじ・しゃくなげ(ロードレンドロン)協会副会長として、世界各国を飛び回った人。次号以降もぜひご期待下さい。

(下山)